S I A S R

(Saitama Infectious Agents Surveillance Report)

Topics Vol. 57

2026 年 6 月 17 日

Vol. 56 は 2026 年第 24 週報に同時掲載

麻しんの発生状況とウイルス検出状況（2026 年）

2026 年は全国的に麻しんの報告数が多く、埼玉県でも、第 24 週（6/8-6/14）までに 40 例が届出されています。これは過去 10 年間で最も多かった 2019 年の一年間の届出数を上回る件数になっています（図１）。病型は麻しん（検査診断例）及び修飾麻しん（検査診断例）で、診断方法は、検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出及び血清 IgM 抗体の検出が 9 人、検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出のみが 27 人、血清 IgM 抗体の検出のみが 3 人、ペア血清での抗体の検出のみが 1 人でした。

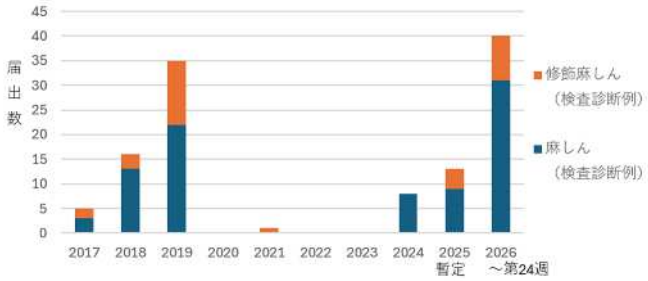

図1　過去10年間の麻しん届出数

年齢別では 20 歳代が最も多く 16 人、次いで 30 歳代が 8 人で、この年齢層で 6 割を占めています（図２）。また、10 歳代では 5 人中 4 人、20 歳代では 16 人中 8 人に 2 回のワクチン接種が確認されました（図３）。

図2　年齢群別麻しん届出数

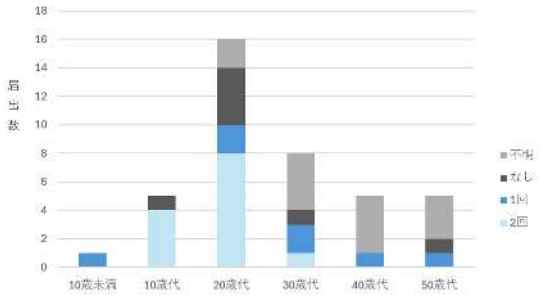

図３　年齢群別ワクチン接種歴別の麻しん届出数

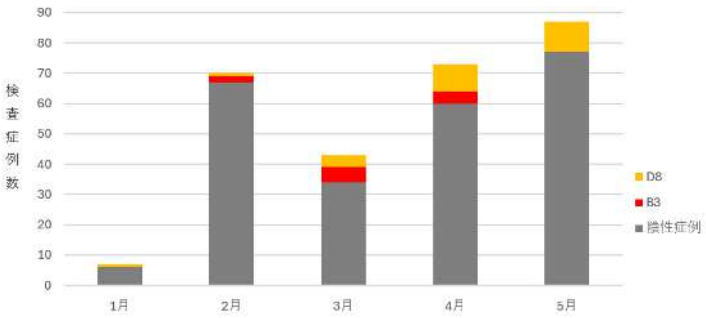

図4　麻しん検査実施状況（2026年）及び検出された遺伝子型

2026年6月15日現在

埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所において実施した麻しん疑い症例の検査実施状況及び検出された麻しんウイルスの遺伝子型は図４のとおりです。検査症例数には、陽性者の接触者であり症状のあった方の検査を含みます。検出された麻しんウイルスの遺伝子型は、B3 が 11 症例、D8 が 25 症例でした。特に 4 月及び 5 月は D8 が多く検出されています。

麻しんウイルス遺伝子検査については、「麻しんに関する特定感染症予防指針」により原則として全例に実施することが求められています。医療機関におかれましては、臨床診断をした時点で保健所に届出を行い、保健所の求めに応じ遺伝子検査用検体（咽頭ぬぐい液、血液、尿）の採取にご協力くださいますようお願いいたします。